

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 2 回相模原市文化振興審議会				
事務局 (担当課)		文化振興課 電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 0 2 (直通)				
開催日時		令和元年 7 月 9 日 (火) 9 時 3 0 分から 1 1 時 3 0 分まで				
開催場所		ウェルネスさがみはら B 館 2 階 集団検診室				
出席者	委員	1 2 人 (別紙のとおり)				
	その他	0 人				
	事務局	7 人 (市民局次長、文化振興課長、他 5 人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 議 題 (1) 次期さがみはら文化振興プランについて (2) その他 3 閉 会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開 会

事務局より戸塚委員の欠席について報告を行った。

2 議 題

(1) 次期さがみはら文化振興プランについて

事務局から資料1に基づき説明を行った。

第1章に記載されている次期プランの策定の目的や第2章の市の文化的特徴については、前回の審議会で出された意見を踏まえて、現行プランに基づく取組内容やアンケート調査結果などから見えた課題を丁寧にまとめていただいた。そのため、本日は第3章の基本方針に出てくる基本理念や基本目標について議論したいと思う。今回ご提案した素案の中で次期プランにおける文化の捉え方を記載しているが、これまで「文化振興」という言葉を使用してきた中で、近年の傾向を見ると国の計画名にもあるとおり、「文化芸術」と少し視点を狭めた中で計画が策定されている実態がある。そのため、本市としても「文化振興」を主とするか、「文化芸術」を主とするかを検討しているところである。その点についてもご意見をいただきたい。

何を文化として位置づけるかは難しい部分だが、国の考える「文化芸術」と相模原市の「文化芸術」が必ずしも一致していなくても良いと考える。資料の8ページに次期プランにおける文化の範囲が記載されているが、相模原市の特徴を踏まえた場合に芸術の解釈も変わってくると思われる。

文化には様々なジャンルがあるが、特に今後推進していく分野や多くの市民に関係してくる分野などの視点から整理すると、次期プランでは「文化芸術」に重きを置いても良いと考える。

話は逸れるかも知れないが、第3章の基本理念については、もう少し簡潔に市として、今後8年間はどのような方向を目指すのかを整理する必要があるのではないかと感じた。例えば、川崎市は音楽のまち川崎と打ち出している。そのため、相模原市も写真のまちなどと銘打っても良いのではないか。第1次プランと現行のプランで目標が違ったように、時代の変化とともに社会情勢なども変わってくるため、今後8年間に関して、どのような文化芸術の振興に携われるかについて、本審議会でも議論したら良いと考える。幅広く全てのジャンルを盛り込み、あれもこれもやるよりは目標をきちんと作った方が、市民も同じ方向を見ながら取り組めるのではないか。

若手の芸術家の方が市内にお住まいでも、事業や催しを行う際に他市で実施されることが多いと感じる。例えば、市内で大人数のコンサートをやるのであれば、グリ

ーンホールや杜のホールが会場となるが、小規模のリサイタルを開催する場合、相模原市には適した場所が少なく、なかなか市内でやろうとはならない。今後、利便性のある場所に小ホールを充実させるような取組を実施していく予定はあるか。

今後8年間で具体的に何に取り組むかは、第4章の中で各委員のお知恵をいただきながら、まとめていきたいと考えており、8年後も継続してやっていく取組と8年間で完結する取組を色分けしなければならないと考えている。

次期プランで取り組む内容については、具体的な構造を作り実施できる形を作らなければ、令和9年度まで滞ってしまうと考える。

具体的な施設の整備計画を次期プランの中で記載することは出来ないが、方向性については、ご議論いただきたいと考えている。

相模原市は、総合写真祭としてフォトシティさがみはらを作ったが、写真を使った芸術や絵のような写真もあり境界がないため、例えばアートシティを目指すとするのはいかがか。

本市は、音楽家のNHK交響楽団の首席奏者が代々在住していたことなどの理由からホルンの聖地と呼ばれており、全国的に有名であるため、そうした部分もアピールできたら良いと考える。

様々な団体や市民の方が素晴らしい活動をしていることは、専門的な視点で見れば評価されていると思う。一方で、昨年度実施したアンケート調査結果を見ると、文化芸術が一般市民には伝わっていない実態があり、そうした課題をどう解決するかということで、前回の審議会でも話題になった情報発信の仕方で、メリハリをつけて取り組んでいく必要があることが見えてきた。各団体でも様々な取組をされていると思うが、そうした取組に関する情報をどのように、誰を対象に届けるのか、また、ニーズがあるのかなども含めて整理していく必要があると考える。

今後、行政には事業を主催するのはでなく、様々な主体を結びつけるつなぎ役を担ってほしいと考えている。例えば、商店街で空き店舗が増えて困っているため活性化を図りたいとなった場合に、行政が間に入って、音楽や美術関係の団体、あるいは学生さんを紹介いただき、そうした方の力を借りる中で活性化を図る取組を行うようなマッチングシステムを作ってもらえるとありがたい。さらに、そうした取組に対するスポンサーとして、民間企業やロータリークラブなど社会貢献活動をしたい主体とマッチングさせることが出来るとより理想的である。

そうした取組は、他の自治体でも行われている。

ロータリークラブ、ライオンズクラブが複数ある中で社会貢献活動をやりたいがどうしたら良いかとなった場合に、行政が仲介してくれると文化を通じた街の活性化に繋がっていくと考える。マッチングをしながら積極的に情報を発信していけば、文化が盛り上がっていくのではないかと思う。

同意見である。行政だけでなく市民文化財団でも、人材バンクのようなマッチング

の仕組みを持っていると良いと思う。

現プランの策定時にも人材バンクの話が出ていた。次期プランではネットワークづくりの話が出てくると思うので、今後の取組の方向性としてひとつのキーポイントになると考えている。マッチングの機能が実現すれば、より文化の振興が図られ、大きな成果が出てくると思う。

各委員から出された意見をまとめると、多様な主体をつなぐネットワークを作るための仕組みが必要ということだと思う。そのことは、第4章の中で具体的に整理していきたいと思う。また、新しいものを作るだけでなく、現在の特徴を活かしていく視点も大事なことだと考える。例えば、フォトシティさがみはらで考えると、市民の関わりは作品制作だけでなく、事業運営にサポーターとして参画している。また、民間事業者も事業に対する協賛を行っており、様々なつながりによって事業が成り立っている。この事業をモデルケースにして、これまで実施してきた取組に何が足りなかったのか、あるいはここに特化すべきというものを思い切って出した方が良いと思う。そうでもしないと、恐らく何も変わっていかない。いくつかの取組はこの1年で、ある程度決着をつけるということを出さないと、理念だけがずっと繰り返していくことになってしまうので、まずは足元の実質的な取組をつくるということで良いと思う。

賛同する。まずは、モデルケースに力を割いていく中で、情報発信のやり方や様々な主体との連携をどうするのかについて考えていった方が分かりやすい。

相模原市にしかないものを推していかなければならないと思う。他のまちには負けないものがあれば、それを強く押し出すことで、他の文化芸術施策にも波及させていくこともできると思う。

アンケート調査結果でも、相模原市が文化的な雰囲気がないと回答した人の割合が高い傾向にあったが、その理由がどこから来ているかというところ、ここで活動したいとか、アートに触れたいと思うような面白い取組がされていないことから来ていると思われる。なので面白い取組を作ることが、第一ではないかと思う。そのためには、学生や若いアーティスト、あるいは一般市民も含めて、人をつなぐファシリテーターが必要になる。ファシリテーターが、この内容よりもこっちの内容の方がトレンドになって人が集まるんじゃないかとか、この内容の事業を実施する場所としては、公民館よりも商店を利用してやった方が地域の活性化にもつながるんじゃないかなどと仕分けしていくことで、ストーリー性も生まれてくる。例えば、宇宙とアートに関する事業をやるのであれば、音楽でも写真でも絵画でも彫刻でも演劇でも、何でも関わることが出来ると思う。また、実施時期をフォトシティさがみはらと同時期にすることでより積極的に打ち出していくことが出来るのではないか。テーマは何でもあり得ると思う。市内には湖がいくつかあるため、湖とアートなども有りだと思う。そうしたテーマ性のある事業があると思ってみたくなる。その際

に、プロの方のトークイベントやワークショップを展開していくと、結構面白くなるんじゃないかと思う。

基本目標の に関連して、地域の美術系大学に通っている学生や芸術家志望の方々が卒業後に相模原市に住んで制作を続けたいというモチベーションを持てるように、例えば市の主催でも良いですし、アトリエを持っている作家の方々への働きかけでも良いので、産業界との連携に向けた仕組みづくりと併せて、作品制作が出来る物件を紹介してくれるなどの、支援があると良いと感じた。

何か形として残すためにも市の特徴を踏まえたイベントなどを催したら、良いのではないかと思う。芸術単体で観客を集めることは難しく、祭りやイベントなどの催しの方が観客を集められる。芸術だけではなく、そこに何か集客力のあるイベントの要素を加えた事業を考えた方がいいのではないか。

アンケート調査結果を拝見すると文化だけでは解決できないことがあると感じた。世代別や地域別で拝見していくと、時間的に余裕があって、芸術鑑賞をしたいという人がいても、会場まで遠いため参加していない人がいたり、また、働いている人は文化事業に関わる時間そのものがない実態がある。そうした問題を文化に関連する課だけで抱えるのは難しいと思うので、例えば、車を持たない人の移動手段として、高齢者施設のデイサービスで活躍しているバスを日中に活用して、行政が移動手段を確保するなど、行政全体が一体となって取り組んでいただくという姿勢がないと問題解決は難しいと思う。そうした取組を行政がやりますよとなったら、他の市ではやってないし、すごいなと思うかもしれない。そういった面での工夫がもう少し、出来ないものかと思う。

相模原市の特徴についてだが、音楽のまちを掲げる川崎市のように何かひとつの分野を掲げるほど特徴があるかという本市はなく、どの分野も非常に高いレベルでご活動いただいているというのが市の認識である。どれかひとつに特化して、他を捨て去るという8年間を作ることは、市として非常に難しい選択であり、全体の理念として、今まで頑張ってきてくださった方々とともに手を携えて進んでいきたいというのが思いである。ただ、8年間すべてに対して、同じように市が投資出来るかという、それは別の話であるため、そこについては皆さんにご意見を賜りながら、短期的な取組として数年間はこれに特化して取り組むなどの工夫をしていきたいと考えている。また、先ほどのお話の中で大きなイベントで人を集めながら、文化を振興していくことについては、おっしゃる通りと感じているため、参考にさせていただきながら具体的な取組を検討し、提案をさせていただく。今後、提案内容に対するご意見を書面でいただきたいと考えており、ご意見をまとめたものを次回の会議で提示をしながら、ご議論をいただく方向で進めさせていただきたい。

行政も各種予算があるため、何でも出来るわけではない。やれることには限りがあると思うので、市の全体予算がどのくらいで、文化振興に使える予算がどれくらい

あるのかという概要資料を示していただきたい。そうでなければ、あれもこれもやってほしいと、要求だけが沢山出てしまうと思われる。

文化予算の現状資料をお渡しできるように準備する。

毎年度必要となる固定経費があるため、それとは別に使える予算がどれくらいで、市の総予算の何%を使っているというような形で、示してもらえると今後の事業検討にも繋がると考える。

絵画と音楽のイベントを組み合わせることは、考えられるのではないかと思う。実際に町田市美術館でも同様の取組を行っており、どちらかの分野に興味があることをきっかけとして、もうひとつの分野にも興味を持ってもらうことが出来ると思う。

既に実施しているものの内容で連携していくことが可能だったりするということですが、皆さんがやられている取組の中には、結果が出たり成果が上がっているものがあったりするんだと思う。問題なのは、そうした結果や成果がなかなか見えてこないということであり、前回から引き続き今回も明らかになったと思う。また、何かに思い切って特化することは勇気のいることだが、何か特徴づけていくというようにしないと、あっという間に8年間が過ぎてしまう。そのため、できれば皆さんも次回に向けて、意見を集約する際に特徴的な取組を意識して、意見を出していただければ、具体的に考えていくことが出来ると思う。

細かい点になるが、次期プランは市の総合計画の部門別計画であるため、総合計画の基本構想で示された方向性を踏まえて、整合性を取りながら策定作業を進めた方が良い。基本構想で使用している言葉やフレーズと同じ意味で使っている箇所があるなら、なるべく基本構想で使用している表現に置き換えた方がいいのではないかと。例えば、「多様な主体との連携・協働」という言葉を使ったり、「次代につなぐまちづくり」という言葉が基本構想では使われている。また、「うるおいと活力に満ちて、笑顔と希望あふれるまち」というキャッチフレーズが基本構想では使われていて、そうした部分は類似していると考えます。

また、新市長の所信表明の中では、「芸術が溶け込んだまちづくり」という言葉を使っており、そうした考えは皆さんがおっしゃっている意見と共通していると思うので、そうした部分も踏まえつつ考えられると良い。

(2) その他

　　次回の審議会の開催予定について確認した。

3 閉 会

以 上

相模原市文化振興審議会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	いわた 岩田 ゆず子	公募委員		出席
2	おおもり 大森 さとる 悟	女子美術大学芸術学部美術学科教授	会長	出席
3	かねこ 金子 ともえ 朋沐枝	相模原市文化協会副会長		出席
4	かみじょう 上 條 ようこ 陽子	相模原芸術家協会会長		出席
5	ささの 笹野 あきお 章央	公益財団法人相模原市民文化財団 常務理事		出席
6	しのざき 篠崎 しげお 重雄	相模原市民俗芸能保存協会副会長		出席
7	すぎもり 杉森 じゅんこ 順子	桜美林大学芸術文化学群教授		出席
8	すずき 鈴木 まさひこ 正彦	光と緑の美術館館長		出席
9	とつか 戸塚 あつお 厚生	相模原市文化財研究協議会会長		欠席
10	ともだ 友田 ゆきお 幸男	相模原市民音楽団体協会理事長		出席
11	なかざと 中里 かずひと 和人	東京造形大学造形学部デザイン学科教授	副会長	出席
12	ひぐち 樋口 みきこ 美佐子	相模原音楽家連盟事務局長		出席
13	みつもと 三本 ひろこ 博子	公募委員		出席